

被災地における 支援体制の いま、これから

—復興・創生期間終了後の 被災者支援のあり方について—

東日本大震災の発災から8年が経過しようとするなか、東北三県の被災地では依然として復興の途上にあり、さらには従来から直面していた少子高齢化や人口減少といった課題への対応も本格的に求められています。「復興庁被災者支援コーディネート事業」の取組を通じて見えてきた、震災後の地域の状況変化や民間支援団体の活動・役割に着目して、2020年度末に復興・創生期間終了を迎える被災地における、被災者支援のあり方について皆様と考えていきます。

平成31年
2月18日(月) 14:00~17:00(開場 | 13:30)

仙台国際センター 会議棟3階 中会議室 白樫^{しらかし}

宮城県仙台市青葉区青葉山無番地

仙台市営地下鉄東西線「国際センター駅」徒歩1分

プログラム

- 導入 支援団体から見た被災地の地域課題・支援体制のいま、これから
- 基調講演 地域再生を見据えた復興のあり方
- 事例発表 各県における、支援団体の活動事例
- パネルディスカッション 官民協働・住民参加を前提とした支援体制のあり方、民間支援団体の役割と可能性

お申込み方法



webサイトの申込フォームに必要事項を記入のうえ、
お申込みください。
<https://mri-project.smktg.jp/public/application/add/368>

お問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所

担当 | 白戸・水野・小田嶋・宮川 Tel | 03-6705-6018 Email | seminar419@ml.mri.co.jp

※ 本シンポジウムは「平成30年度復興庁被災者支援コーディネート事業」の一環で実施しております。

モデレーター

兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科 教授
青田 良介



兵庫県職員として阪神・淡路大震災を経験。1998年にアジア防災センターに出向し、アジア地域各国との防災協力を進める。その後、神戸大学大学院に進学、仕事の傍ら防災研究に取り組む。2017年4月から兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科にて、自助・共助・公助による復興、防災体制のあり方、防災協力等に関する教育研究に携わる。

事例発表

岩手県



二宮 雄岳 | 釜石リージョナルコーディネーター協議会 統括マネジメント

1966 年生まれ。2014 年 10 月より現職。隊員の目標設定や進捗管理などのサポート及び総括、東部・平田地区のコミュニティ形成支援、地域包括ケア関連事業、中心市街地の事業者連携事業など推進。

宮城県



吉田 智治 | 多賀城市総務部 地域コミュニティ課市民活動推進係 副主幹

昭和 55 年宮城県塩竈市生まれ、東北学院大学卒業後、平成 17 年に多賀城市役所に入庁し、文化財分野、防災分野を担当。東日本大震災発生時には商工観光課に在籍し、被災企業の復興支援に従事する。平成 29 年 4 月より現職、市民協働と参画のまちづくり、災害公営住宅の自治会支援に携わる。

福島県



平山 "two" 勉 | 双葉郡未来会議 代表

1966 年富岡町生まれ。在京中に音楽レーベルを立ち上げ、2009 年に富岡町に戻り、「ホテルひさご」を受け継ぐ。震災以降、「富岡インサイド」「相双ボランティア」「双葉郡未来会議」を立ち上げ、2018 年 11 月には双葉郡の情報発信拠点「ふたばいんふお」を開館する。

プログラム

14:00	開会
14:03 ~ 14:25	導入 支援団体から見た被災地の地域課題・支援体制のいま、これから - 被災者支援コーディネート事業の説明 - 被災三県の支援団体へのアンケート調査結果の報告 株式会社三菱総合研究所 主席研究員 白戸 智
14:25 ~ 14:50	基調講演 地域再生を見据えた復興のあり方 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授 青田 良介氏
14:50 ~ 15:10	事例発表 1 岩手県釜石市 釜石リージョナルコーディネーター協議会(釜援隊)
15:10 ~ 15:30	事例発表 2 宮城県多賀城市 多賀城市総務部地域コミュニティ課
15:30 ~ 15:40	休憩
15:40 ~ 16:00	事例発表 3 福島県双葉郡 双葉郡未来会議
16:00 ~ 16:50	パネルディスカッション これからの支援体制のあり方、支援団体の役割と可能性 モデレータ 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授 青田 良介氏 パネリスト 各県事例の登壇者
16:50 ~ 17:00	質疑応答・総括
17:00	閉会